

60歳以上高年齢の自殺者は増加したまま

交通事故死者数は最近10年で半減して平成20年(2008)には5,155人になりましたが、自殺者数は平成10年(1998)に32,863人の3万人台に急増し、それ以前の約1.5倍になって以来高止まりしています。

なかでも、50歳台と並んで60歳以上の高年齢自殺者の激増が特徴的です。高齢社会になって高齢者数が増加したことがその一因と考えられますが、それだけでは説明しきれない高年齢者自殺者の激増ぶりです。65歳以上というデータがありませんが、平成20年(2008)には詳細なデータがあり、60歳台5,735人、70歳台3,697人、80歳以上2,361人です。

この高年齢者の自殺の動機は、約7千人が健康問題、約2千人が経済・生活問題、家庭問題約千5百人です。その他で最も多いのが孤独感で285人です。戦後の再建を担ってきたのはこの高年齢者層ですが、自殺者の背後に同じ悩みを抱えた多くの方がいることを考えると、その老後は非常に厳しいと言えます。

